

栗熊コミュニティまちづくり計画Ⅱ

安心して暮らせるまち栗熊



栗熊コミュニティ

はじめに

栗熊コミュニティは、この度「安心して暮らせるまち栗熊」をシンボルテーマとした第Ⅱ期まちづくり計画を策定しました。

平成22年9月に第Ⅰ期まちづくり計画がスタートし、栗熊のまちづくりを進めてまいりました。しかし、栗熊地区も人口減少と少子高齢化が進み、加えて、近年の米価の下落は、農業に対する意欲の低下となり、農村社会の維持が危ぶまれています。また、行政の広域化により、公共サービスの「公」から「私」へのシフトが強まるなど、私たちを取り巻く状況が大きく変わろうとしており、コミュニティ活動の重要性が一層高まっています。

このような情勢の中で、栗熊のまちづくりはどうあるべきか、どうすればまちが元気になるか、住民の皆様の意見や要望を把握するため、全世帯を対象にまちづくりアンケート調査を実施しました。

アンケート調査の結果を見ると、栗熊のまちのイメージにふさわしいものは「安心して暮らせるまち」と答えた人が79%と最も多く、第Ⅱ期まちづくり計画のシンボルテーマとしたところ です。

「まちづくりにおいて大切にしていきたいことは」との問いに対しては、「人と人のつながり」が一位、次いで「住民同士の助け合い」が二位となっています。

第Ⅱ期まちづくり計画では、これらのアンケート調査の結果を大切に、まちづくりの目標や実行計画を策定しました。

コミュニティ活動の大きな柱は、私達が暮らすまちを、住民が主体となって自ら考え行動し、住みよいまちをつくることです。

栗熊には、都会にはない素晴らしい自然や、支え合い助け合う豊かな心など、他に誇れる沢山のものがあります。ふるさとの魅力を発掘するとともに、コミュニティ活動に多くの住民が参加することが、まちの活力向上につながり、栗熊地域が一層飛躍するものと信じています。

最後になりましたが、まちづくり計画策定に当たりご協力いただきました委員の皆様には厚く御礼申し上げます。

平成29年3月

栗熊コミュニティ会長

松岡 繁

も く じ

I 栗熊校区の概要

1 位置と現状	1
2 人口	2
(1)人口及び世帯数の推移	
(2)年代別人口	
(3)年代別人口の推移	
(4)高齢化率の推移	
3 産業	3
4 主要地目別土地面積	
5 農家数・農業就業人口	
6 主要なため池	4
7 公共施設	
8 公園	5
9 福祉施設	
10 神社	
11 寺院	
12 遺跡	6
13 栗熊の歴史年表	7
14 イラストマップ	8

II 評価と課題

1 第I期まちづくり計画の評価	10
2 地域住民の意識	13
3 地域の課題	17

III まちづくり計画

1 めざすまち	19
2 まちづくりの目標	20
3 計画事業	21
4 実行計画(総務部)	24
(育成部)	26
(環境安全部)	28
(保健福祉部)	30
(体育部)	32
(文化部)	34

関連資料

栗熊コミュニティ組織図	36
まちづくり計画策定の経過	37
まちづくり計画策定委員名簿	38

I 栗熊校区の概要

1 位置と現状

栗熊コミュニティは、栗熊校区すなわち丸亀市綾歌町栗熊地区と富熊地区の一部により構成されています。

栗熊校区は、香川県のほぼ中央部丸亀平野の東南部に位置しています。東は、堤山を境に綾川町に接し、南は高見峰と猫山の稜線を境にまんのう町に接しています。西は猫山から仁池に至る線をもって岡田地区と、北は快天山古墳の位置する北山と仁池堤を結ぶ線付近で富熊地区と接しています。東西 2.5 km、南北 4 km のほぼ長方形に近い形で、面積は約 8.30 km² です。

地域の地勢として、南部に西から標高 371.5m の城山、標高 467.7 m の猫山、標高 504.1m の大高見峰の綾歌三山の稜線を持つ丘陵の北部に開けた地域で、大東川の支流が南北に流れ、点在するため池を潤しており、北部の平地部には条里制の名残のある地名も残っています。東には讃岐七富士のひとつ堤山があり、北には讃岐富士(飯野山)が望めます。

交通の便は、東西に国道 32 号、県道 278 号線(綾歌・綾川線)、市道下土居・奥西線、馬指・烏田線及び高松琴平電鉄が走り、南北には、県道 22 号線(善通寺・綾歌線)と市道定連・打越線、西谷・定連線、梨岡・徳部線、西行末・本村線及び市道馬指・原線、馬指・油山線が走っています。

農地に恵みをもたらす河川は、中大東川及び支流の猫谷川・定連川、東大東川及び支流の寺川・木山川並びに綾川の用水道大井出からの馬指川などがあります。

こうした中で、総合文化会館アイレックスや保健福祉センターなどの公共施設、レジャー施設のニューレオマワールドがあり、交通の便にも恵まれ、緑と水辺空間など自然環境に恵まれた栗熊は、田園の町として発展しています。

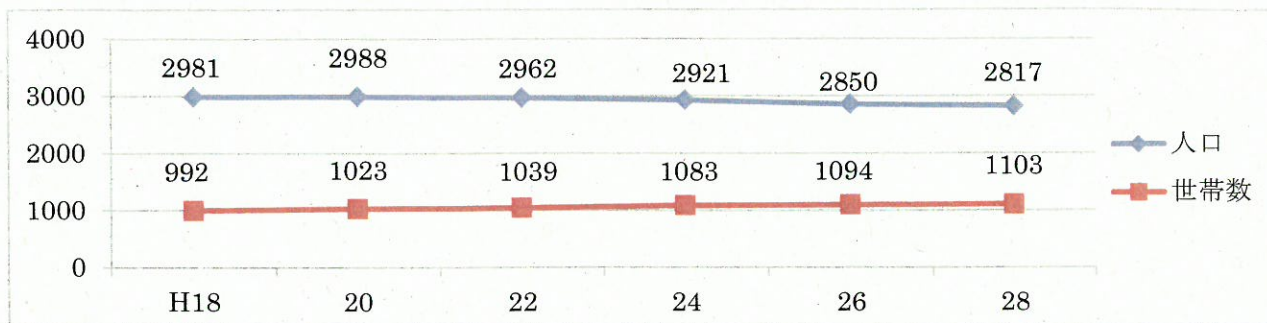


綾歌三山

2 人口

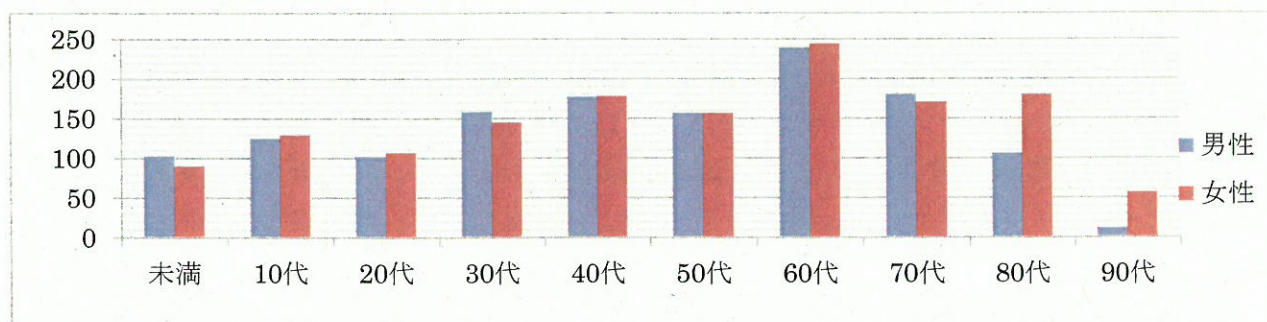
(1) 人口及び世帯数の推移

(各年4月1日現在 住民基本台帳:人・世帯)



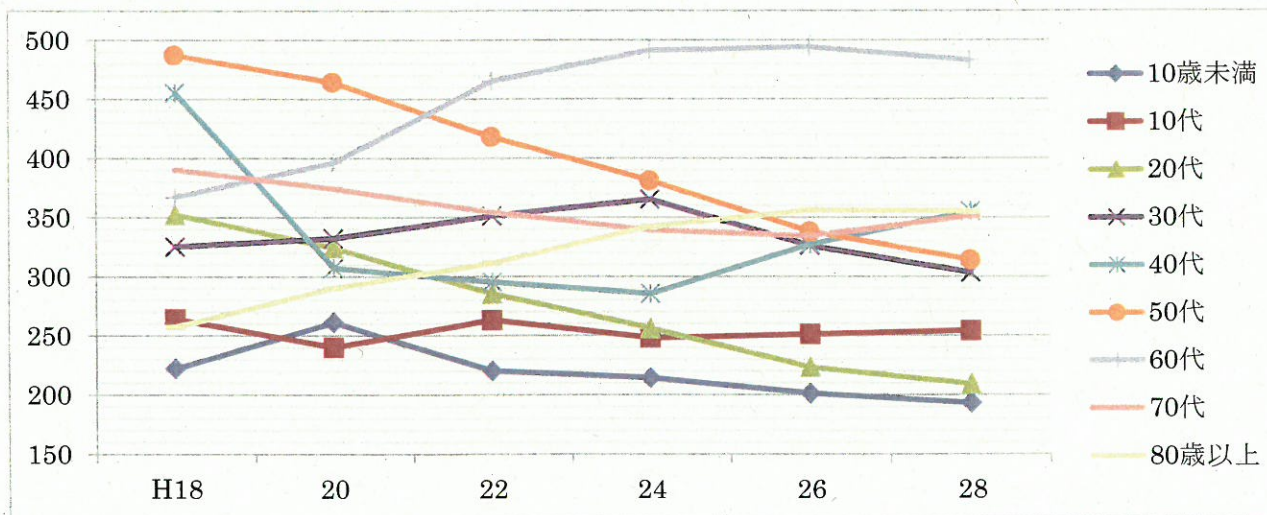
(2) 年代別人口

(平成28年4月1日現在 住民基本台帳:人)



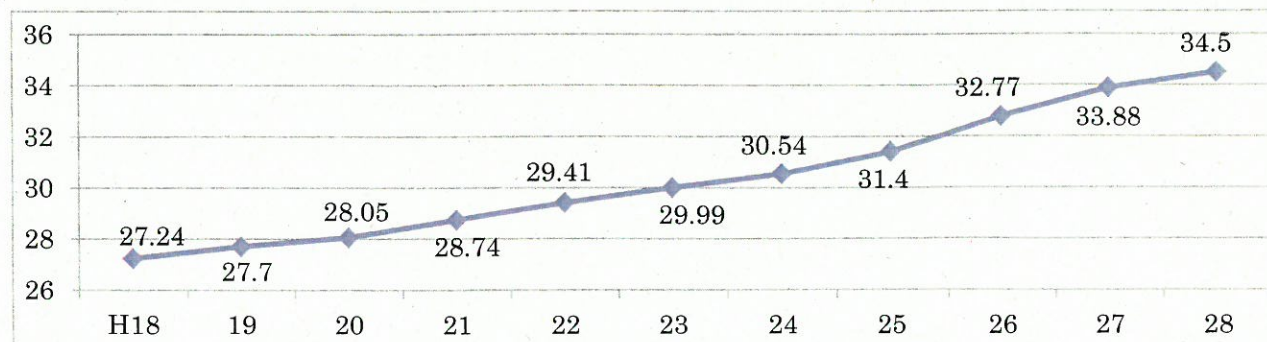
(3) 年代別人口の推移

(各年4月1日現在 住民基本台帳:人)



(4) 高齢化率の推移 (65歳以上)

(各年4月1日現在住民基本台帳:%)



綾歌町の人口は、平成 28 年 4 月 1 日現在で 11,467 人、世帯数は 4,392 世帯です。10 年前の平成 18 年の人口は 11,866 人で世帯数は 3,907 世帯です。人口で 399 人(3.4%)の減少、世帯数は 485 世帯(12.4%)の増加です。

栗熊校区の人口は、平成 28 年 4 月 1 日現在 2,817 人、世帯数は 1,103 世帯です。10 年前の平成 18 年の人口は 2,981 人で世帯数は 992 世帯です。10 年間に人口で 164 人(5.5%)の減少、世帯数は 111 世帯(11.2%)の増加でした。

年代別人口を見ると、20 代以下の年代で減少が顕著に見られます。

平成28年度の高齢化率は 34.5%で、10 年前と比較すると、7.3 ポイント、人数で 160 人増加しています。

3 産業

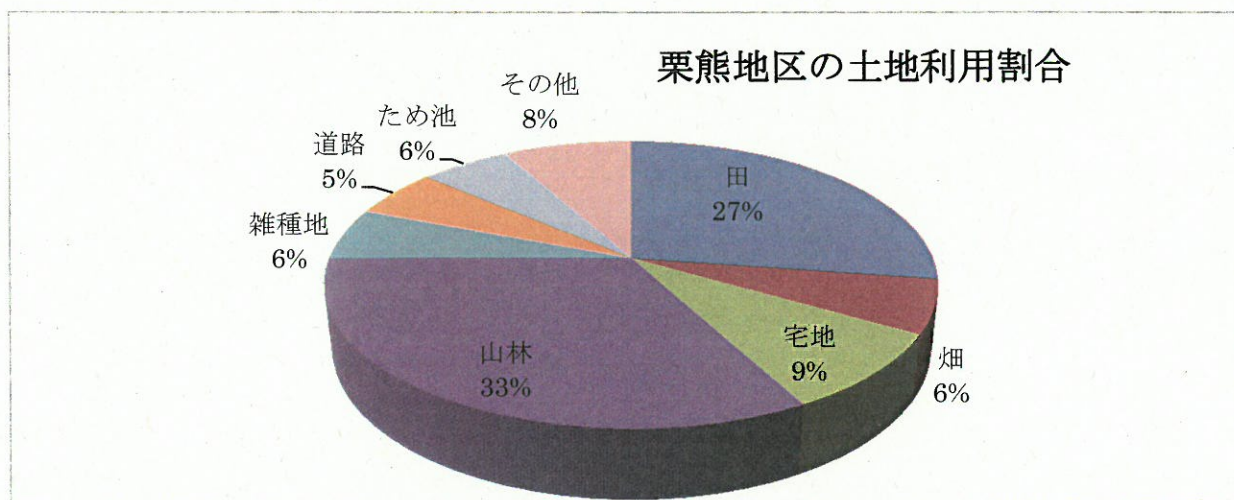
栗熊地区は、古くから水稻、麦を中心とした「米どころ」ですが、米価の下落に伴い水稻作付面積は減少の一途をたどり、近年は耕作放棄地も大幅に増えています。

現在では、キャベツ、アスパラガス、ブロッコリー、菜花、にんにく、菊などの農産物を栽培し、主に関東・関西方面に出荷しています。

4 栗熊地区主要地目別土地面積

(平成 28 年税務課資料 単位:ha)

田	畑	宅地	山林	雑種地	道路	ため池	その他
240.7	53.1	77.2	288.4	51.8	48.2	49.6	70.9



5 栗熊の農家数・農業就業人口

(農業センサス:戸・人)

年度	平成 7 年	12 年	17 年	22 年	27 年
総農家数	389	378	357	252	226
農業就業人口	458	458	405	286	210

栗熊の平成 27 年度農家数は 226 戸で、10 年前に比べると 131 戸(36.7%)の減少です。農業就業人口は 210 人で 10 年前に比べると 195 人(48.1%)の減少です。

6 栗熊の主要なため池

No.	池名	所在地	貯水量(千t)	灌漑面積(ha)	満水面積(ha)	堤長(m)
1	みずはし 水橋池	栗熊東 2131	267.0	78.00	6.60	278
2	つつみ 堤池	栗熊東 3594	201.0	48.00	5.60	280
3	じょうれんしも 定連下池	栗熊西 314	66.0	22.00	1.67	151
4	つばた 津畑池	栗熊西 1776	46.4	3.00	2.71	130
5	じょうれんかみ 定連上池	栗熊西 207	42.6	9.50	1.50	141
6	どろ 土路池	栗熊西 202	37.2	20.00	1.62	83
7	はら 原池	栗熊東 3302	32.4	7.50	0.75	213
8	うじろう 宇次郎池	栗熊東 3370	30.9	9.00	0.24	200
9	くすり 薬池	栗熊東 2529	27.0	14.50	1.10	170
10	くずかみ 葛神池	栗熊東 2845	19.2	12.00	0.64	90
参考	仁池	上法軍寺	1502.1	347.00	28.00	328

7 公共施設

地区内には、綾歌市民総合センター、綾歌図書館、総合文化会館「アイレックス」、綾歌保健福祉センター、栗熊コミュニティセンター、綾歌健康づくりふれあいセンター「湯舟道」、綾歌中学校、栗熊小学校、栗熊保育所、栗熊駐在所等があります。



綾歌市民総合センター



アイレックス



綾歌保健福祉センター



湯舟道

8 公園

地区内には、三ツ池公園、天満公園、行末公園があります。



三ツ池公園



天満公園



行末公園

9 福祉施設

地区内には、老人福祉施設として、綾歌荘、華、宝樹リノ、障がい者支援施設として、うぶすな園、さんさん荘などがあります。

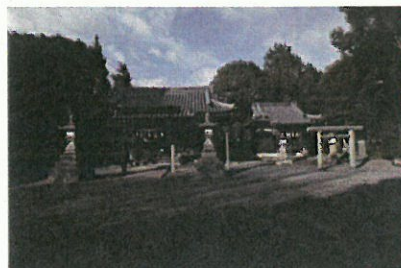
10 神社

栗熊東…^{すみよしじんじや}住吉神社、^{しじゅうさんじんじや}四十三神社、^{くすじんじや}久斯神社

栗熊西…^{うへじんじや}宇閑神社(通称うのえ神社)、^{すわじんじや}諏訪神社



住吉神社



宇閑神社



諏訪神社

11 寺院

栗熊東…^{しいふくじ}勝福寺

栗熊西…^{ふくじけいじ}福成寺、^{せんりつじ}専立寺



勝福寺



福成寺



専立寺

12 遺跡

①弥生時代…^{いくす}行末遺跡、^{いくすにし}行末西遺跡、^{さこがわ}佐古川遺跡、^{さこがわ くぼた}佐古川・窪田遺跡、^{つつみいけみなみ}堤池南遺跡

^{ひらお}平尾墳墓群

②古墳時代…^{かいてんやま}快天山古墳、^{いしづかやま}石塚山古墳、^{うのへじんじや}宇閑神社(通称うのえ神社)古墳、^{あぜだ}畦田古墳群等

③中世城郭…^{くりくまじい}栗隈城跡、^{なかむらじょう}中村城跡

④近世遺産…^{こんびら}こんびら街道とその関連遺産(道標、灯籠、地藏等)



快天山古墳



こんびら街道

13 栗熊の歴史年表

西 暦	年 号	郷 土 (栗熊) の 出 来 事
300 年頃		快天山古墳が造られる
640 年頃		讃岐国は 11 郡に分けられ鶉足郡が置かれる この頃栗隈郷または隈玉郷と呼ばれる(現在の栗熊・富熊)
1633	寛永 10 年	「讃岐国絵図」には栗熊郷 2,927 石 3 斗とある
	江戸前期	栗熊村と呼ばれる(現在の栗熊・富熊)
1669	寛文 9 年	栗熊村、富熊村になっている
1790	寛政 2 年	栗熊東村、栗熊西村になっている
1890	明治 23 年	栗熊東村、栗熊西村が合併して栗熊村となる
1899	明治 32 年	郡制公布、鶉足郡から綾歌郡になる
1948	昭和 23 年	栗熊村・富熊村学校組合立久栄中学校設立
1951	昭和 26 年	町村合併により、栗熊村・富熊村が久万玉村となる 久栄中学校は久万玉中学校と改称
1959	昭和 34 年	久万玉村と岡田村が合併して綾歌町となる
1963	昭和 38 年	岡田・久万玉中学校が統合され、綾歌中学校となる 綾歌郡老人ホーム開設(現綾歌荘)
1966	昭和 41 年	綾歌中学校校舎完成
1968	昭和 43 年	馬指交差点に綾南警察署管内最初の信号機設置 香川用水幹線水路工事着工
1969	昭和 44 年	綾歌中学校、栗熊小学校屋内運動場完成
1970	昭和 45 年	綾歌町民プール完成
1973	昭和 48 年	栗熊小学校校舎完成
1974	昭和 49 年	香川用水幹線水路完成
1976	昭和 51 年	栗熊保育所園舎完成
1978	昭和 53 年	綾歌町役場新庁舎完成、農村環境改善センター開館
1988	昭和 63 年	湯舟道完成
1991	平成 3 年	「レオマワールド」開園
1996	平成 8 年	総合文化会館「アイレックス」完成
2001	平成 13 年	国道 32 号バイパス一部供用開始
2002	平成 14 年	保健福祉センター完成
2004	平成 16 年	快天山古墳が国史跡に指定 「ニューレオマワールド」リニューアルオープン
2005	平成 17 年	丸亀市・綾歌町・飯山町が合併し、新「丸亀市」誕生 栗熊コミュニティ設立
2010	平成 22 年	国道 32 号綾歌町内 4 車線化



栗熊校区イラストマップ





II 評価と課題

1 第I期まちづくり計画の評価

第I期まちづくり計画は、「自然と歴史文化の交流のまち」を将来像とし、「歴史を尊ぶまち栗熊」をシンボルテーマとして、5つのまちづくりテーマを設定し、それぞれの施策を実行してきました。

そのために5つの部会と実行委員会及び連合自治会と自主防災会が、コミュニティの活動として取り組んできました。各部会の実施状況を見ると、まちづくりは着実に前進しているといえます。その一方で、コミュニティで取り組むものと各種団体・機関や自治会が取り組むもの、さらには行政に求めるものなどの仕分けや、相互の連携、情報共有の点で不十分なところや、一部未着手の事業があり、次期計画に反映していく必要があります。以下はテーマごとの主な評価です。

(1) 身近な自然と歴史文化を尊ぶまちづくり

- ・「農村風景と豊かな自然環境の保全」では、住民の生活のなかで、自治会や水利組合また所有者が草刈りや用水路の管理等を行っています。しかし、高齢化の進行で耕作放棄地や、管理が行き届かない山林などが増加しています。
- ・「史跡の保存・整備」では、快天山を守る会やNPO法人あやうたが、快天山古墳や栗隈城の草刈りや、トイレの清掃等を行っています。要望している史跡整備は進んでおらず、一刻も早い整備計画の進展が望まれます。
- ・「水辺環境の整備」では、水利組合がため池の管理や用水路の管理を行っています。
- ・「金毘羅街道の修景整備」では、地元住民が一斉清掃等で管理しています。



一斉清掃



子どもたちと散策

(2) 日常生活が営みやすく賑わいと活力のあるまちづくり

- ・「公共交通の維持・充実」では、コミュニティと環境安全課で、コミュニティバスの運用について協議しています。
- ・「良好な住環境の形成」では、各自治会や地元住民で取り組んでいますが、コミュニティは、行政と協議して住環境の改善を図っていきます。
- ・「働く場所や、新たな産業の創出」では、厳しい農業環境の中で、一部法人化等の動きもありますが、コミュニティは行政との連携による取り組みとして働く場所や、新たな産業の創出に取り組む必要があります。
- ・「歩行者通行空間の確保」では、校区の安全マップの作製など交通安全に努めてきましたが施設面での整備等、行政への働きかけを強めます。

(3) 誰もが健康で安心して暮らせるまちづくり

- ・「高齢者福祉、障がい者福祉の充実」では、介護予防事業に取り組むなど高齢者福祉では実施していますが、障がい者福祉では解決すべき問題が多々残っています。
- ・「防犯、防災、交通安全対策の充実」の防災では、自主防災組織を結成し防災備品の整備を行い、防災訓練を行うなど前進しており、防犯交通安全対策では、クリックマン見守り隊を結成し、子どもたちの交通安全や防犯活動を実施しています。
- ・「安心して子育てができるまち」では、少子化で児童の数が激減しており、子どもたちとの散策など世代間交流を通じて地域ぐるみでの取り組みを行っています。
- ・「健康づくりの促進」では、ゲートボール・フロアーカーリング・ウォーキング等の生涯スポーツの推進と男性の料理教室などを実施しています。



コミュニティバス



敬老会

(4) 心豊かな人が育ち誰もが生きがいを感じるまちづくり

- ・「幼児教育の充実」では、あいさつ運動を実施するとともに、運動会・夏の夕べなどの行事に参画しています。
- ・「学校教育の充実」では、あいさつ運動・夏休み絵画教室を実施するとともに、新入生のお祝い・運動会・親子教室などの行事に参画しています。
- ・「生涯教育の充実」では、インターネット研修会・学習クラブの連絡調整を実施しています。

(5) 自治会の活性化と自立のまちづくり

- ・「花のまちづくりの推進」では、コミュニティセンターの花の植え替え、散水、草ぬきや保育所での花の植え替えを実施しています。
- ・「ボランティア参加の推進」では、コミュニティまつり、防災訓練を実施しています。
- ・「住民参加の促進」では、コミュニティまつり、防災訓練、出前講座を実施しています。
- ・「地域内情報の発信」では、広報紙「さんさん快天」を毎月発行しています。



あいさつ運動



広報紙「さんさん快天」

以上、第Ⅰ期まちづくり計画について、各項目ごとに評価してきましたが、当該計画は、市又は旧綾歌町の計画を参考に作成しているため、行政の計画に近い計画になっています。そのため、コミュニティとして評価が適正でないものや、一部の活動評価にとどめている部分があります。

第Ⅱ期計画では、適正な評価ができるよう、実際に活動しているコミュニティの各部を中心に計画を策定し、活動する必要があります。

2 地域住民の意識

(1) アンケートによる住民意識

栗熊コミュニティでは、今回のまちづくり計画策定にあたり、広く住民の声を聞くため「まちづくりアンケート」を実施しました。その結果は次のとおりです。

対象者は778世帯で、回収結果は538世帯(69%)でした。

① 日常生活における主な交通手段

94%の住民が、日常生活における主な交通手段を「自家用車またはバイク」に頼っており、80歳以上に限っても60%が「自家用車またはバイク」を利用しています。

② 栗熊の住みやすさ

86%の住民が「住みやすい」または「どちらかという住みやすい」と感じており、「住みにくい」または「どちらかという住みにくい」と感じている人は6%となっています。

③ 栗熊に住み続けたいか

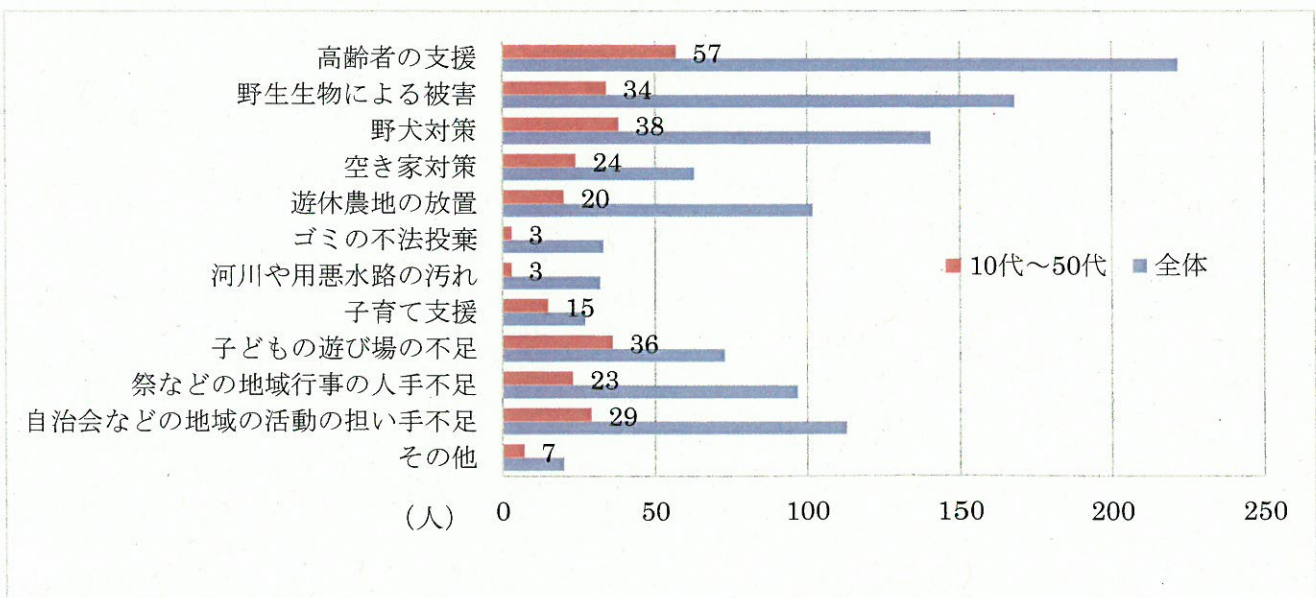
「これからも栗熊に住み続けたい」と思う人の割合は84%で、「できれば栗熊以外に住みたい」は4%となっています。しかし、現役世代(20歳～60歳)では、「できれば栗熊以外に住みたい」と答えた割合は10%と高くなっています。

④ コミュニティ活動に参加したことがあるか

コミュニティ活動に78%の人が「参加したことがある」と答えており、「参加したことがない」は22%でした。

⑤ 地域をあげて解決すべき問題や課題

地域をあげて解決すべき問題や課題で、最も多いのは「高齢者の支援」で、以下多い順に「野生生物による被害」「野犬対策」「自治会など地域活動の担い手不足」「遊休農地の放置」「祭りなど地域行事の人手不足」「子どもの遊び場の不足」「空き家対策」となっています。



これを、現役世代(20歳～60歳)に限ると「子どもの遊び場の不足」が3番目に入ってきます。

⑥ 高齢者や障がい者への支援

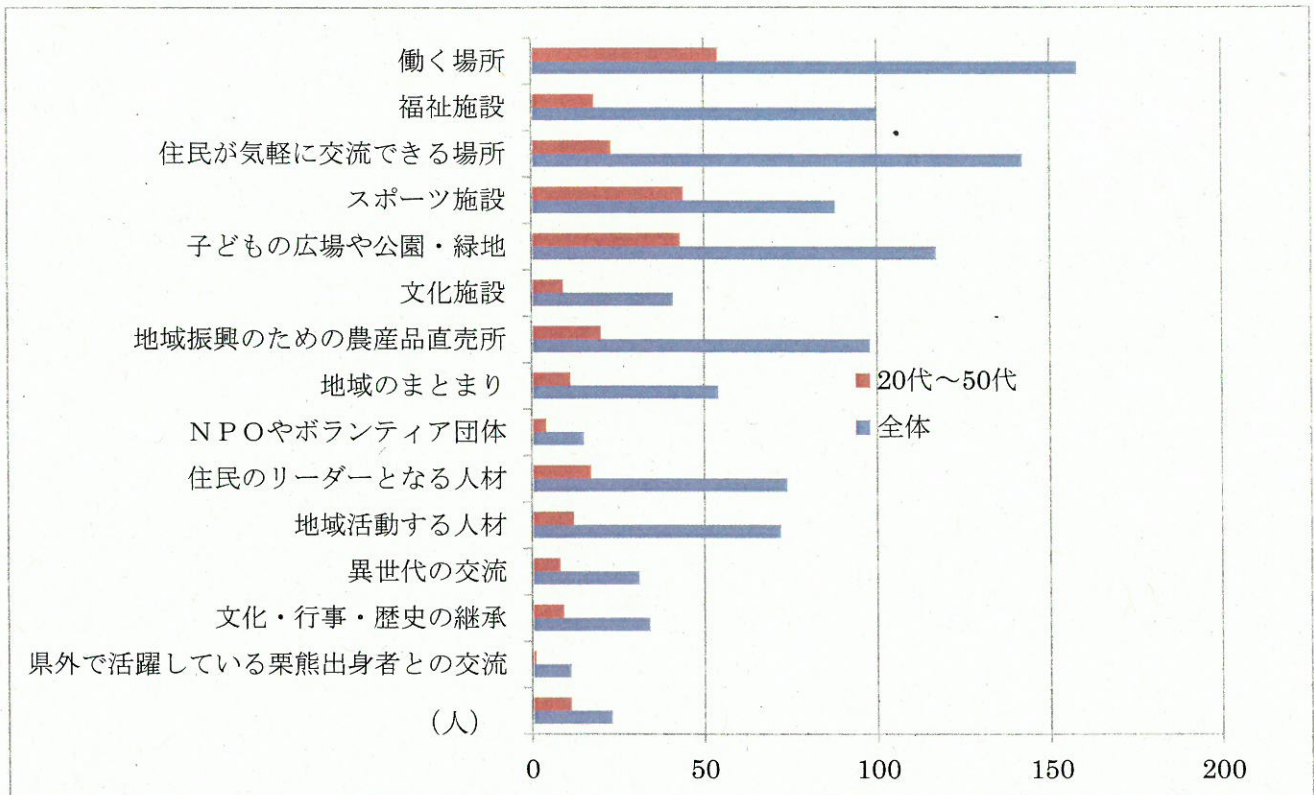
住民の85%が「高齢者や障がい者が安心して住み続けられるように同じ地域に住む住民として何らかの支援が必要」と思っています。

また、支援の内容について、「高齢者宅の見回りや声掛け」65%、「自治会や地域行事等の役割免除」で37%、「災害避難時の移動支援」で30%、「地域の人と交流する機会を増やすための支援」が21%でした。

⑦ 栗熊に不足しているもの・あったらいいもの

栗熊に不足しているものやあったらいいものとしては、一番多いのが「働く場所」で、以下「住民が気軽に交流できる場所」「子どもの広場や公園・緑地」「福祉施設」「地域振興のための農産物直売所」「スポーツ施設」の順になっています。

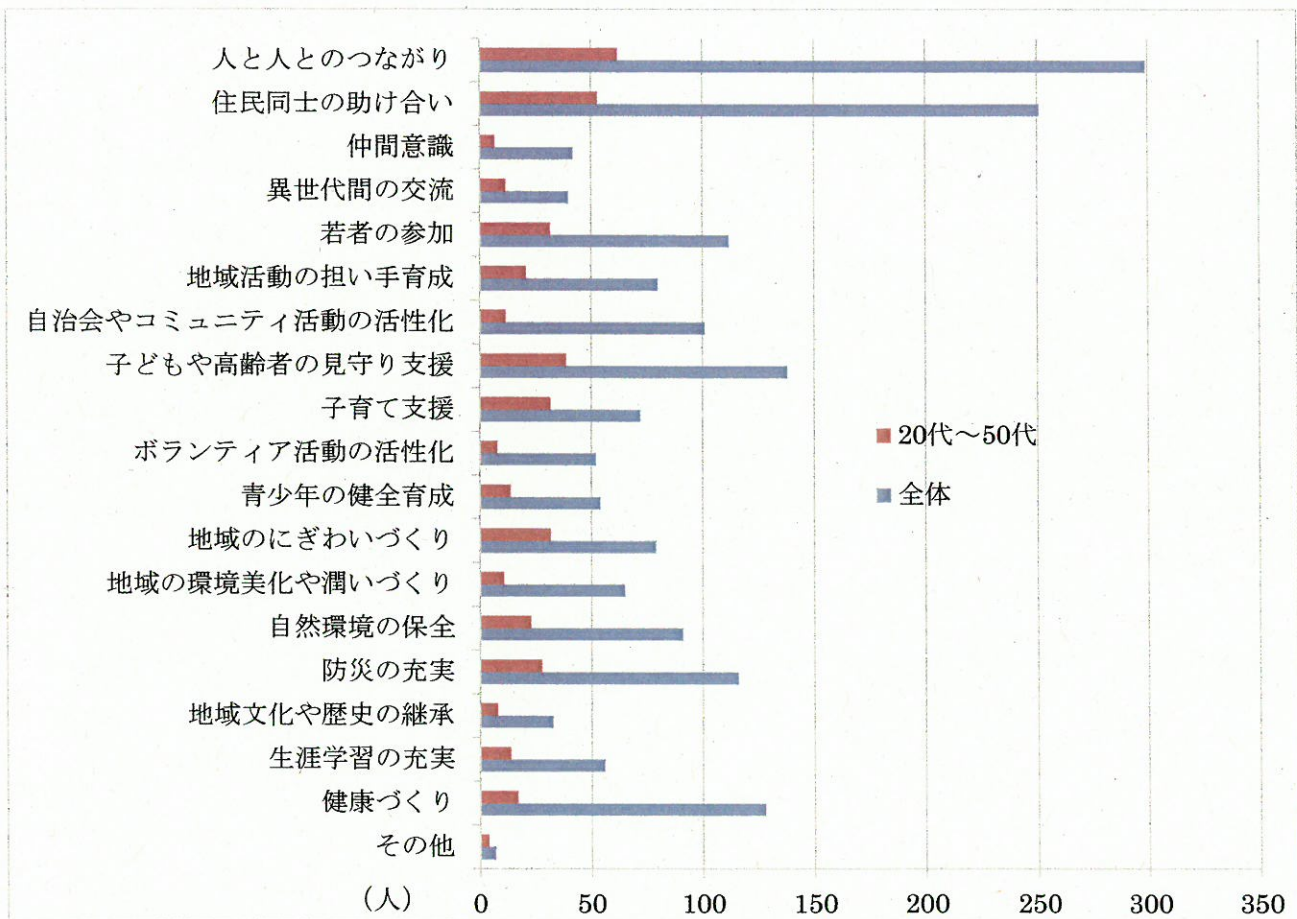
これを、現役世代(20歳～60歳)に限ると、一番多いのが「働く場所」で、以下「スポーツ施設」「子どもの広場や公園・緑地」「住民が気軽に交流できる場所」「地域振興のための農産物直売所」と、優先順位がかなり異なるとともに「スポーツ施設」や「子どもの広場や公園・緑地」を重視していることが解ります。



⑧ これからのまちづくりにおいて大切にしていけるべきこと

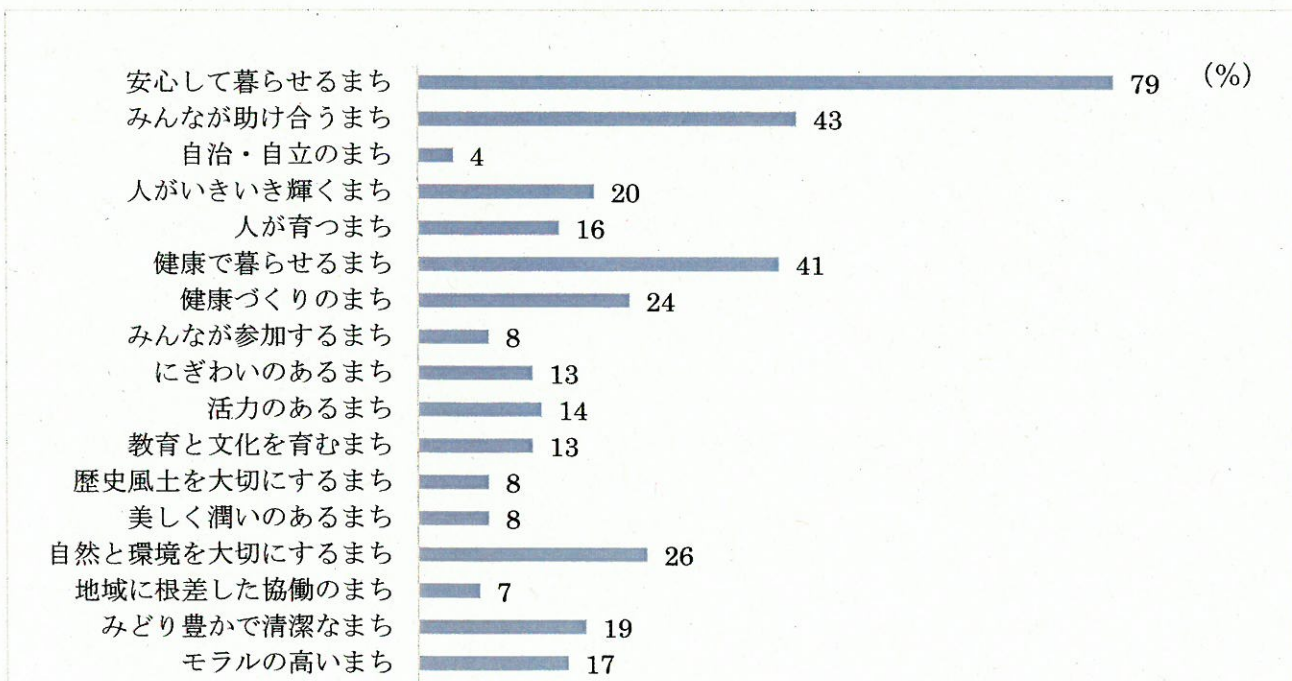
これからのまちづくりにおいて大切にしていけるべきことについては、「人と人とのつながり」とする人が59%と一番多く、以下、「住民同士の助け合い」「子どもや高齢者の見守り支援」「健康づくり」「防災の充実」「自治会やコミュニティ活動の活性化」の順となっています。

これを、現役世代(20歳～60歳)に限ると、一番多いのが「人と人とのつながり」以下、「住民同士の助け合い」「子どもや高齢者の見守り支援」「若者の参加」「子育て支援」「地域のにぎわいづくり」となっています。



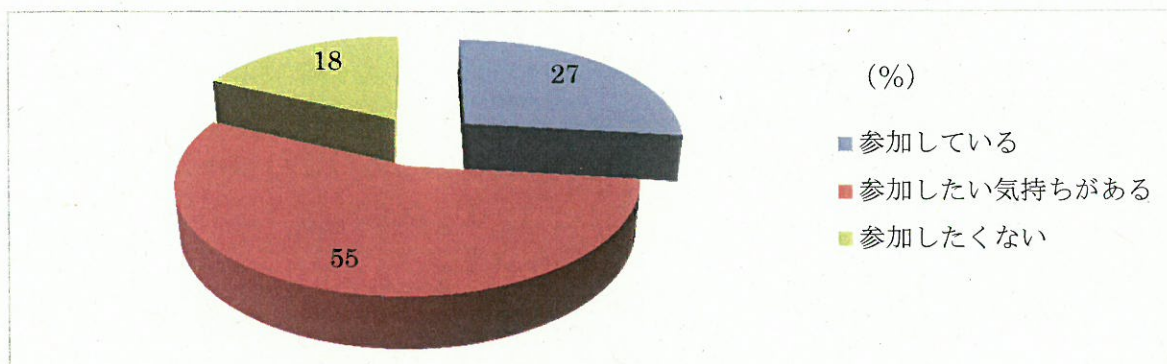
⑨ 栗熊のまちのイメージ

栗熊のイメージにふさわしいものとしては、「安心して暮らせるまち」を選択した人が79%で圧倒的に多く、ついで、「みんなが助け合うまち」が43%、「健康で暮らせるまち」が41%、「自然と環境を大切にするまち」が26%、「健康づくりのまち」が24%となっています。



⑩ ボランティア活動への参加意識

ボランティア活動への参加意欲を聞いたところ、27%が「参加している」、55%の人が「参加したい気持ちがある」と答えています。



(2) 自治会長会等での意見

自治会長会やコミュニティ総務部会、まちづくり計画策定委員会、丸亀市コミュニティ協議会連合会及びアンケートにより出された主な地域の問題や課題は次のとおりです。

① コミュニティの組織力強化

まちづくり、地域づくりの必要性が高まり、コミュニティの役割が増す一方で、コミュニティ構成員の高齢化に伴い、活動を担う人材の不足が生じています。また、コミュニティの中核組織である自治会への加入率が低下傾向にあるため、コミュニティ組織も弱体化する恐れが生じています。このため、自治会離れの対策が必要であります。さらに、PTA、婦人会、老人会などのコミュニティ構成団体がそれぞれに独立した組織であるため、全ての団体がコミュニティの一員としてまちづくりに取り組むことが困難な状態になっています。

② 子どもの育成関係

子どもの育成関係では、「地域に子どもが少ない」、「子どもが外で遊ばなくなっている」、「ひとりでゲーム遊びにふける子が多い」などの意見があり、アンケートでも「子どもの遊び場が少ない」が61%を占めています。

③ 環境保全関係

環境保全関係では、「自然と環境を大切にすまち」のイメージが強い一方、「イノシシの被害や野犬対策」、「遊休農地の放置」などの問題もあります。

④ 福祉・健康関係

福祉関係では、地域をあげて解決すべき課題として、「高齢者の支援」を挙げており、公共交通機関や生きがいづくり対策が必要であります。

健康関係では、「健康づくり」を大切にすべきだと考える人が多く、「健康で暮らせるまち」、「健康づくりのまち」をイメージする人が多くいます。

⑤ 防災・防犯関係

クリックマン見守り隊を評価する人が多く、これからも継続を望んでいます。

防災関係では、「防災の充実」を望む声が多くあります。

3 まちづくりにおける地域の課題

(1) 防災・防犯関係

- ・ 栗熊地区は、古くから比較的災害の少ない地区で、防災意識が低く、防災体制も十分とは言えません。ため池や急傾斜地も多く、土砂災害警戒区域や、洪水や浸水にも警戒しなければなりません。また、30年以内に70%の確率で発生が予想される国内最大級の南海トラフ地震はもとより、異常気象による災害に対しても十分な備えが必要と思われます。
- ・ 犯罪や交通事故についても発生が少ない地区ですが、国道32号バイパスの整備による交通量の増加や車両の高速化、安全施設が未整備なうえ保守管理が行き届かない生活道路における交通事故の発生や自治会活動の低下、少子高齢化による子どもや女性、高齢者を狙った犯罪が増加する懸念があります。

(2) 福祉・健康関係

- ・ 長寿社会にあって、いつまでもいきいきと輝くためには、楽しく、落ち着ける場所があり、新たな刺激があり、人の為になっているという意識があり、健康であることが欠かせません。しかし、知識や経験を活かせる場所や、他の人と気軽に集い、交流できる場所や機会は少なく、運動や健康管理に対する関心も高くありません。
- ・ 一人暮らしの高齢者や高齢者夫婦のみの世帯が増えていますが、安心して住み続けるためには、地域として、何らかの対策をとる必要があります。
- ・ 少子高齢化社会の拡大に伴い、車に乗らない高齢者や住民は、日常生活が不便な状況に置かれており、深刻な地域課題となることが予想されます。

(3) 子どもの育成関係

- ・ 少子高齢化の中、子育てに不安や悩みを抱えている親が少なからず存在し、子どもの数がこれまで以上に減少することが予想されます。子どもを産み育てやすい環境、特に子どもを地域ぐるみで育てていく体制の整備が必要であります。
- ・ 最近では家の中でひとり遊びをする子どもが多くいます。子どもの数の減少や家族の少人数化とともに、近くに安全な遊び場が少ないことも要因になっています。

(4) 地域づくり関係

- ・ これからのまちづくりには、「住民同士の助け合いを大切に」との意見が多いが、助け合いの気持ちは、日頃の付き合いや共通の経験、協働作業等を通して生まれます。そのため、地域間・世代間をつなぐ「住民が気軽に交流できる場」とともに、住民が主体的に参加できるイベントメニューを考える必要があります。
- ・ 地域には、「農業が衰退し地盤沈下の進む栗熊地区をなんとか活性化したい」そして、「近くに働く場所もほしい」という強い思いがありますが、これは、コミュニティにとって大きすぎる課題であります。行政に働きかけ、取り組みを促していく必要があります。
- ・ 地域活動のリーダーや担い手の不足を懸念する声が多くありますが、今後人材の発掘・育成

に積極的に取り組む必要があります。

- ・ 自分の住んでいる地域のことを知らないで地域に関心が湧くはずがありません。地域に関心がなくて地域活動が生まれるわけありません。このため、地域のこれからの課題を含めた様々な情報をより多くの住民に届け、共有化していくことが重要であります。

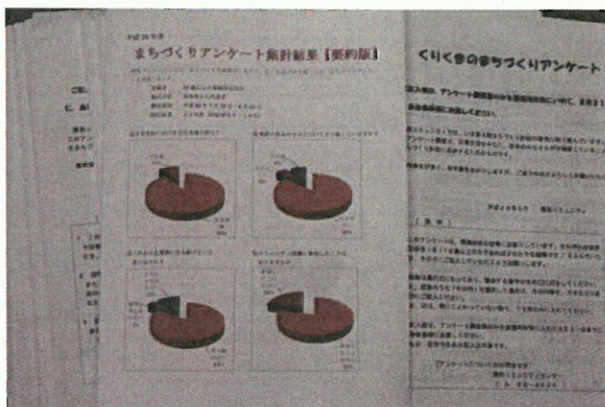
(5) 環境保全関係

- ・ もはや地球温暖化や資源問題はさけて通れず、わずかな努力でできるゴミの減量化や省エネに積極的・継続的に取り組む必要があります。
- ・ 近年、私たちの周囲には、遊休地や耕作放棄地が増加するとともに、水路の汚れや管理などの問題が生じています。また、野犬や野生生物等の出没が住民の安全を脅かしたり、農作物の被害を生むなど生活環境が悪化しつつあります。
- ・ 自然環境に恵まれていることが、栗熊に住み続けたい大きな理由であるように、この自然環境は栗熊の大きな財産であります。これをいつまでも大切に、後世に確実に引き継いで行く必要があります。

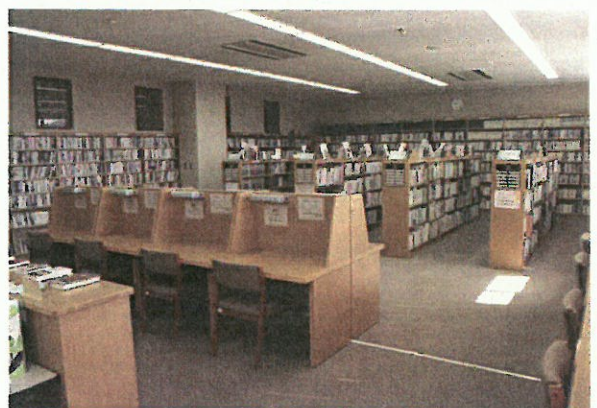
(6) 教育・文化関係

- ・ 旧綾歌町時代の町民憲章では、一番目に「歴史と伝統を守り、教育文化の薫り高い町をつくりましょう」とうたわれていましたが、合併後 10 年が経過した現在もこの思いは住民に引き継がれていると考えられます。

そうした思いを実現するため、歴史や文化の継承を容易な形に整理し、学習することを通じて、先人たちが築いた栗熊の歴史や文化に理解を深め、郷土栗熊に誇りと愛着を持つとともに、これを後世に引き継いでいくことは、私たちにとって大きな使命であります。



まちづくりアンケート



綾歌図書館

Ⅲ まちづくり計画

1 めざすまち

第Ⅰ期計画では、「自然と歴史文化の交流のまち」を将来像に、「歴史を尊ぶまち栗熊」をシンボルテーマとして、その実現に向けて取り組んできました。

今回、第Ⅱ期計画を策定するにあたり、あらためて栗熊を考えてみます。

コミュニティには、「安心して心豊かに暮らすことのできる地域社会を築くため、地域の課題解決やまちづくりに自発的に取り組む」ことが求められています。

このため、栗熊コミュニティでは、平成22年9月に第Ⅰ基まちづくり計画を策定し、その計画に基づきまちづくりを進めてきましたが、その計画が平成27年で終了しました。そこで、改めて平成29年度を初年度とする第Ⅱ期まちづくり計画(計画期間5年間)を策定します。

栗熊は、温暖で災害も少なく、環境や自然条件に恵まれた農村地帯であります。宇閑神社、快天山古墳、栗隈城跡など壮大な夢やロマンを感じさせる歴史もあります。

道路や交通機関も比較的整備され、学校、公共施設も整い、内陸部にある地域としては、比較的生活条件が整っています。

また、住民の性格は穏やかで、人情も厚く、見守りや支え合いの意識も高く、クリックマン見守り隊の隊員も100名を超えています。子どもたちも素直で礼儀正しく、犯罪や事故も多くありません。

このように、誇れる<くりくま>ではありますが、もちろん前述のとおり、他の地区と同様に解決すべき様々な課題がありますし、課題は今後も出てきます。そのすべてが解決できるわけではありませんが、住民が力を合わせて取り組み努力するその先に、すべての住民にとって住みやすい、住み続けたいまちがあると考えます。

そこで、めざすまちをアンケート調査で圧倒的に支持された「安心して暮らせるまち栗熊」とします。



クリックマン見守り隊



歴史探訪

2 まちづくりの目標

多くの住民がこれからのまちづくりにおいて、「人と人とのつながり」「住民同士の助け合い」「子どもや高齢者の見守り支援」「健康づくり」「防災の充実」「若者の参加」「自治会やコミュニティ活動の活性化」「子育て支援」「地域のにぎわいづくり」を大切にしていくなぎと答え、同様にふさわしい栗熊のイメージとして、「安心して暮らせるまち」「みんなで助け合うまち」「健康で暮らせるまち」「自然と環境を大切にするまち」「健康づくりのまち」「人がいきいきと輝くまち」「みどり豊かで清潔なまち」をあげています。

これらの意見を踏まえ、次の6つをまちづくりの目標とします。

① にぎわいと活力のあるまちづくり

住民同士のつながりや、お互いさまの意識を大切にし、みんなで助け合い、にぎわいと活力のあるまち

② 心豊かな人が育つまちづくり

自主性、豊かな創造力、他人を思いやる豊かな心をもった子どもを育て、子どもの明るい声や笑顔のあふれるまち

③ 誰もが安心して暮らせる美しいまちづくり

災害に対する備えを確立し、犯罪や事故のない安全な社会づくりにみんなが協力して取り組むまち

④ 健康で生きがいを感じるまちづくり

誰もが生きがいを持って、心身ともに健康で、まちに活気があり、一人ひとりが尊重されるまち

⑤ 健康で元気あふれるまちづくり

子どもや若者が集い、子どもから高齢者まで参加できるスポーツを通じて、体力と活気を育むまち

⑥ 自然と歴史文化を尊ぶまちづくり

みどり豊かな自然や優れた環境を守り、地域の歴史や文化を理解し、後世に引き継いで行くまち

3 計画事業

(1) にぎわいと活力のあるまち（総務部）

地域のにぎわいづくりや自治会の活性化など、住民同士のつながりやお互いの意識を大切にする活動を行います。

【具体的な取り組み】

○地域振興事業

地域のにぎわいづくりや地域振興のために、栗熊の良さをPRする事業を行います。

○自治会振興事業

自治会加入の促進を図り、ゴミステーションの整備等、自治会組織の強化に努めます。

○組織体制強化事業

コミュニティ組織体制の見直し、体制の強化を図ります。

(2) 心豊かな人が育つまち（育成部）

子どもと子育て世代を地域で支えていく環境を整備していくとともに、子どもにさまざまな遊びを体験させる機会や安全な遊び場を確保する取り組みを行います。

【具体的な取り組み】

○ふれあい事業

心豊かで笑顔あふれる子どもを育てるため、あいさつ運動や自然体験を通じた交流を行います。

○子育て支援事業

子どもの安全な屋内外の遊び場づくり、子育て情報交換の場や子育て学習の場としての親塾、夏休み子ども教室を開設します。

(3) 誰もが安心して暮らせる美しいまち（環境安全部）

住民一人ひとりの防災・防犯意識を高めるための啓発活動、非常時に実際に機能する防災・減災システムづくり、関係機関と連携した見守り活動、生活環境の整備などを進めていきます。

【具体的な取り組み】

○防災に関する事業

地震、集中豪雨などの自然災害による被害の防止と軽減を図るため、防災意識の高揚のための講習・啓発活動や災害時に実際に機能する防災システムづくり、それに基づく避難・救護訓練等を行います。

○犯罪防止に関する事業

子どもや高齢者を狙った犯罪を未然に防ぐため、行政や関係機関と連携しながら、パトロー

ル活動や防犯に関する学習・啓発活動を行います。

○事故防止に関する事業

交通事故など不慮の事故を未然に防ぐため、関係機関と連携しながら啓発・学習活動や交通安全施設の点検整備などを行います。

○生活環境改善事業

地域の生活環境を守るための一斉清掃、花壇の花の植え替え、ゴミステーション見回り、ゴミの減量化などを行います。

○鳥獣被害対策

地域住民や農作物を野犬やイノシシなどの野生動物から守るため、行政と一体的な対策を行います。

(4) 健康で生きがいを感じるまち（保健福祉部）

誰もが安心して地域で暮らしていけるよう、住民一人ひとりが福祉に関心を持つとともに、高齢者等の日常生活を福祉関係者と地域の身近な人で見守り、助け合い支え合う取り組みを進めていきます。

【具体的な取り組み】

○高齢者等支援事業

福祉関係者や自治会と連携しながら、見回り・声掛けや日常生活における小さな支援のほか、いきいきサロン活動の支援などを行います。

○介護予防事業

高齢者の介護予防のための体操教室・健康講座を開設するとともに、生きがいづくり・健康づくりのための子どもたちとの散策・伝承遊びを実施します。

○料理教室事業

男女共同参画意識の高揚と住民相互の交流を図るため、地元農産品の使用や食事バランスに配慮した料理教室を開催します。

(5) 健康で元気あふれるまち（体育部）

住民の運動習慣を身に付け、健康増進と交流を図る健康づくりを進めていきます。

【具体的な取り組み】

○スポーツ振興事業

歴史探訪ウォークやゲートボール、フロアーカーリングなどの軽スポーツを通じて住民の健康増進を図ります。

○スポーツ普及事業

ペタンクやその他のニュースポーツの普及を図るため、用具の調達、講習会等の取り組みを行います。

(6) 自然と歴史文化を尊ぶまち（文化部）

自然環境や景観を大切に、身近な生活環境を整備していくとともに、栗熊の歴史や文化を学び後世に引き継ぐ取り組みを進めていきます。

【具体的な取り組み】

○情報の発信事業

コミュニティだよりとホームページを駆使して、地域の情報や課題を、より解りやすく、充実した内容で多くの住民に届くよう発信します。

○天体観測事業

地域住民を対象にして、注目すべき天体現象を望遠鏡等で観測し説明する会を実施します。

○歴史文化事業

栗熊の地理や歴史を理解し、栗熊に愛着と誇りを持ってもらうために、史跡等を訪ね歩く歴史探訪ウォークを体育部と共催します。



マスコットキャラクター「クリックマン」

4 実行計画

【総務部実行計画】

にぎわいと活力のあるまち

総務部では、地域住民が安心して暮らすことができる地域社会を実現するため、コミュニティの構成団体の協力を得ながら、「コミュニティまつり」の開催や「防災訓練」の実施、「市長懇談会」などを行い、地域の「にぎわい」と「活力」を生み出します。

(1) 地域振興事業

① コミュニティまつりの開催

11月の第4日曜日にコミュニティを中心に、コミュニティまつり実行委員会を立ち上げ、各種団体の協力の下開催しています。今後も継続し、新しい企画や内容の充実に努めます。

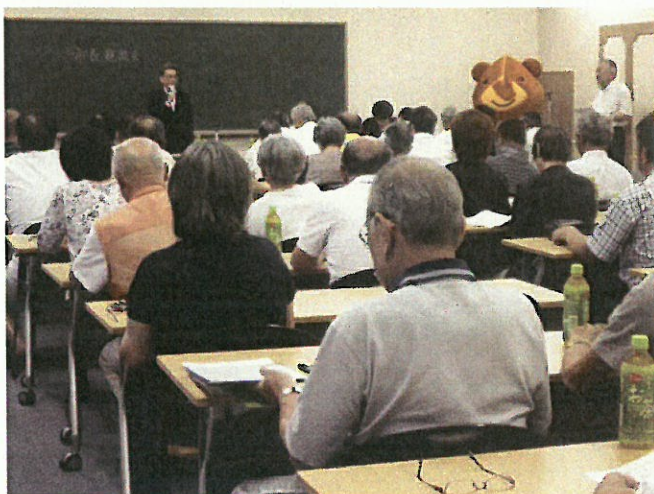


防災訓練

② 防災訓練の実施

栗熊小学校と栗熊地区自主防災会の防災訓練を実施しています。

防災に対する意識の徹底と災害時に備えた防災訓練など、まだまだ不足しており、訓練だけでなく、備蓄と知識の習得に努めます。



市長懇談会

③ 人と人とのつながり事業

住民どうしの助け合いやにぎわいと活力、心豊かな町を目指して、住民が気軽にふれあえる場所を設置します。

④ 市長懇談会

市長懇談会を継続実施します。

⑤ ホームページの管理

ホームページを開設し、内容の充実・更新に努めます。

(2) 自治会振興事業

① 自治会加入促進

自治会未加入者の加入促進を図るとともに、自治会組織の強化を図ります。

② 地域掲示板の整備

地域の掲示板を各ゴミステーションの周辺に、順次設置します。

③ ゴミステーションの修理・更新

ゴミステーションの見回りをして、器具の修理・更新を行い、環境保全に努めます。

(3) 組織体制強化事業

① 構成団体との協議

コミュニティを構成している各種団体と協議して、各種団体とコミュニティ活動との協調性を図り、コミュニティ組織体制の強化を図ります。

【総務部アクションプラン】

目 標	事業名	目 標 (具体的施策)			
		現 状	29 年度	30・31 年度	32・33 年度
にぎわいと活 力のあるまち	地域振興	コミュニティまつり	継続	⇒	⇒
		防災訓練	継続	⇒	⇒
		つながり事業	検討・実施	継続	⇒
		市長懇談会	継続	⇒	⇒
		ホームページ	実施	継続	⇒
	自治会振興	加入促進	継続	⇒	⇒
		掲示板設置	検討	協議	設置
		ゴミステーション修理	継続	⇒	⇒
	組織体制強化	構成団体協議	協議	⇒	⇒



コミュニティまつり

【育成部実行計画】

心豊かな人が育つまち

育成部では、地域の方々と協力しながら子どもたちが楽しく、健全に成長できるような行事や、地域の方々とふれあう機会を持つことで交流促進を図り、子どもたちに豊かな心が育まれるように努めます。

(1) ふれあい事業

① あいさつ運動

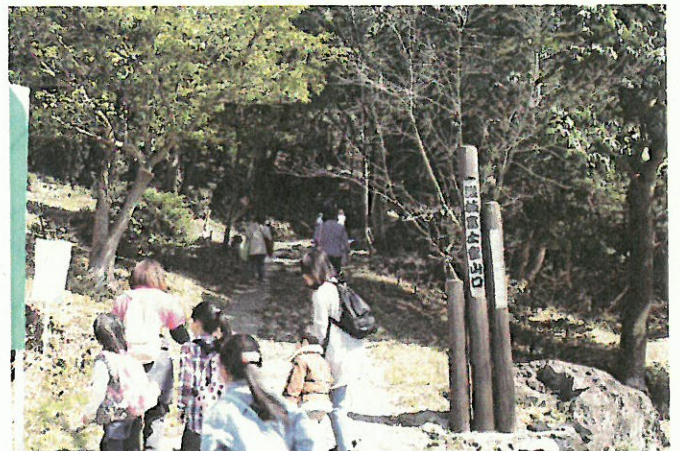
保育所・小学校・中学校の正門で、毎月20日前後に、コミュニティ役員や各種団体のメンバーが、登校する児童生徒にあいさつの声掛けをするあいさつ運動を行います。

② 保育所との連携

保育所の幼児とのふれあいの場として、運動会への参加や夏の夕べなどの行事に参加し、保育所との連携を図ります。

③ こども園との連携

こども園の園児とのふれあいの場としてコミュニティまつりや親子研修を通じて連携を図ります。



飯野山登山

④ 小学校との連携

新入生のお祝い、運動会、夏休みの絵画教室を通じて、小学校との連携を図ります。

⑤ 中学校との連携

地域学習や絵画教室を通じて、中学校との連携を図ります。

(2) 子育て支援事業

① 子育て支援

親子で参加するアウトドアイベントなどで自然と触れ合える行事などで、子育て情報の交換の場を創るなどの取り組みを行います。



講習会

② 講習会の開催

心豊かで笑顔あふれる子どもを育てるための研修会、講習会を開催します。

【育成部アクションプラン】

目標	事業名	目標（具体的施策）			
		現状	29年度	30・31年度	32・33年度
心豊かな人が育つまち	ふれあい事業	あいさつ運動	継続	⇒	⇒
		保育所（運動会） （夏の夕べ）	継続	⇒	⇒
		こども園（親子研修） （コミュニティまつり）	継続	⇒	⇒
		小学校（入学式） （運動会） （夏休み絵画教室）	継続	⇒	⇒
		中学校（地域学習） （絵画教室）	継続	⇒	⇒
	子育て支援	子育て支援 （親子イベント）	継続	⇒	⇒
		講習会の開催 （親子研修会）	継続	⇒	⇒



子ども広場（コミュニティまつり）

【環境安全部実行計画】

誰もが安心して暮らせる美しいまち

地域における生活環境の保全と環境美化活動の推進、子どもたちの交通安全と啓発活動に努めます。

(1) 交通・防犯事業

① クリックマン見守り隊

- ・栗熊の宝、栗っ子は地域の大人たちで守ろうの合言葉のもと、有志の方々が集結しクリックマン見守り隊を結成しました。
- ・下校時刻に合わせて地域内を巡回する青パト部
- ・児童に付き添い下校をしたり、危険個所に立つ散歩立哨部
- ・農作業や畑仕事をしながら子どもたちを見守る農作業部

上記の3部隊からなるクリックマン見守り隊は、イエローカラーのベストや帽子を着用して子どもたちを交通事故はもちろん不審者・野犬・イノシシ等から守ることを目的に活動を続けます。



クリックマン見守り隊



花の植え替え

(2) 環境美化事業

① 一斉清掃

美しいまちづくりのため、各自治会との共同作業で、捨てられている空き缶等を拾い、自らの町は自らの手で清掃し、ゴミのない町にします。

② 花の植え替え

春と秋、コミュニティセンター周りの花の植栽と園児との交流のため保育所に花を植えることにしており、四季を感じ情緒豊かな心を育みます。

③ ゴミステーション見回り

各ゴミステーションを巡回し、ゴミステーションの美化、ケージの痛み具合を確認して修理・改修に努めます。

(3) 防災事業

① 防災講習会

防災講習会を開催して、災害に対する意識と知識を高め、災害被害の減災に努めます。

② 防災訓練

栗熊地区自主防災会と共に防災訓練を行います。

【環境安全部アクションプラン】

目標	事業名	目標（具体的施策）			
		現状	29年度	30・31年度	32・33年度
誰もが安心して暮らせる美しいまち	交通・防犯	クリックマン見守り隊	継続	⇒	⇒
	環境美化事業	一斉清掃	継続	⇒	⇒
		花の植え替え	継続	⇒	⇒
		ゴミステーション見回り	継続	⇒	⇒
	防災事業	防災講習会	継続	⇒	⇒
		防災訓練	継続	⇒	⇒



クリックマン見守り隊パレード

【保健福祉部実行計画】

健康で生きがいを感じるまち

誰もが生きがいを持って、心身ともに健康で、まちに活気があり、一人ひとりが尊重されるまちを目指します。

(1) 介護予防事業

① 健康講座

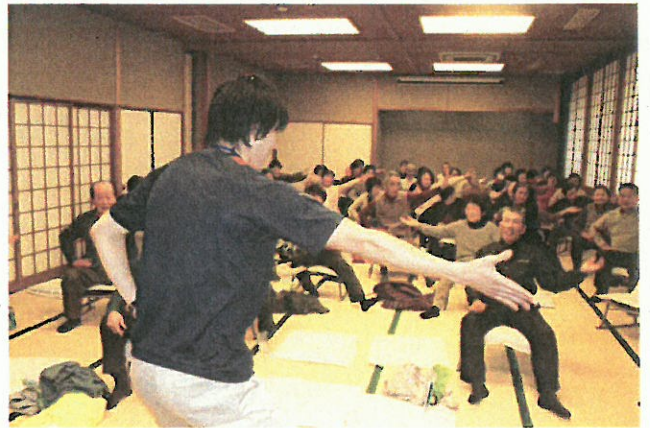
自分や家族の健康に関心を持ち、生き生きと暮らすために、健康講座を開き各種検診の受診率を高め、元気なまちをつくります。

② 体操教室

普段運動をしない高齢者を中心に、体操教室を開催して、運動習慣を身に付けて、健康なまちをつくります。

③ ふれあい事業

子どもたちと散策、伝承遊びなどの行事を通して、高齢者と子どもたちとの世代間交流を図り、生きがいと活力を見出します。



体操教室



男性の料理教室

(2) 高齢者支援事業

① 料理教室

男性の料理教室、シニア料理教室、親子クッキングを開催して、地場産野菜や郷土料理などを通じて食育を高めていきます。

② 見回り事業

高齢者や一人世帯の見回りを行い、声掛けや慰問を実施、支援の必要な世帯の把握に努め、他の機関と協力して効果的な活動を行います。

(3) 支援事業

① いきいきサロン支援事業

各地区で実施しているいきいきサロン活動を支援します。

【保健福祉部アクションプラン】

目標	事業名	目標（具体的施策）			
		現状	29年度	30・31年度	32・33年度
健康で生きがいを感じるまち	介護予防事業	健康講座	継続	⇒	⇒
		体操教室	継続	⇒	⇒
		ふれあい事業	継続	⇒	⇒
	高齢者支援	料理教室	継続	⇒	⇒
		見回り事業	調査・検討	実施	継続
	支援事業	いきいきサロン	継続	⇒	⇒



親子クッキング

【体育部実行計画】

健康で元気あふれるまち

地域住民が健康で、いきいきと活力あふれるまちづくりを行います。

(1) スポーツ振興事業

① 歴史探訪ウォーク

年2回市内の神社仏閣や遺跡を散策し、町の歴史や文化に触れ、故郷の良さを再認識し、その重要性を理解するとともに、自己の体力向上につなげます。

② フロアーカーリング

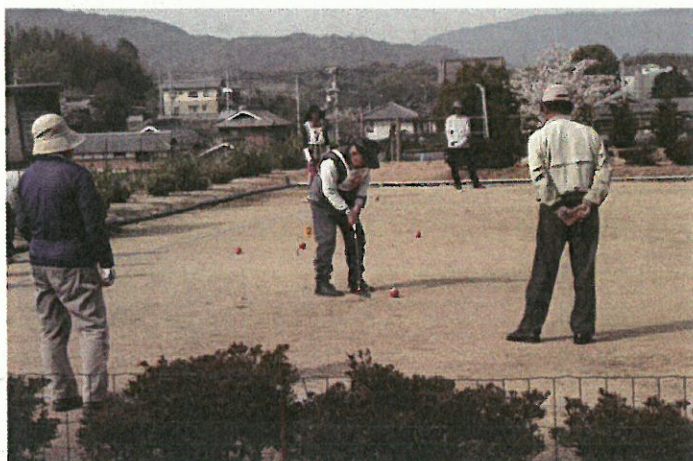
老若男女が楽しめるフロアーカーリングの普及に繋げるための講習会や大会を開催して、住民の健康増進に努めます。

③ ゲートボール

現在活動しているゲートボールクラブの活動を支援するとともに、普及推進に努めます。



フロアーカーリング



ゲートボール

(2) スポーツ普及事業

① 卓球教室

新たに卓球台を導入して、親しみやすい卓球が気軽にできるように、卓球教室や大会を開催します。

② ニュースポーツの普及

ニュースポーツの普及のため、ペタンクやドッジビーの指導者養成のための講習会の開催や用具の調達に努めます。

【体育部アクションプラン】

目標	事業名	目標（具体的施策）			
		現状	29年度	30・31年度	32・33年度
健康で元気あふれるまち	スポーツ振興事業	歴史探訪ウォーク	継続	⇒	⇒
		フロアーカーリング	継続	⇒	⇒
		ゲートボール	継続	⇒	⇒
	スポーツ普及事業	卓球教室	調査	実施	⇒
		ニュースポーツの普及	調査	検討	実施



歴史探訪ウォーク

【文化部実行計画】

自然と歴史文化を尊ぶまち

自然や歴史文化に触れる機会を創り、地区内の情報を分かりやすく発信することに努めます。

(1) 情報発信事業

① さんさん快天の発行

毎月発行しているコミュニティ広報紙「さんさん快天」を継続して発行するとともに、内容の充実に努めます。

(2) 天体観測事業

① 天体観測教室

地域住民を対象にして、注目すべき天体現象を望遠鏡等で観測し説明する教室を実施します。



天体観測



編集委員会

(3) 歴史文化事業

① 歴史探訪ウォーク

栗熊の地理や歴史を理解し、栗熊に愛着と誇りを持ってもらうために、史跡等を訪ね歩く歴史探訪ウォークを体育部と共催します。

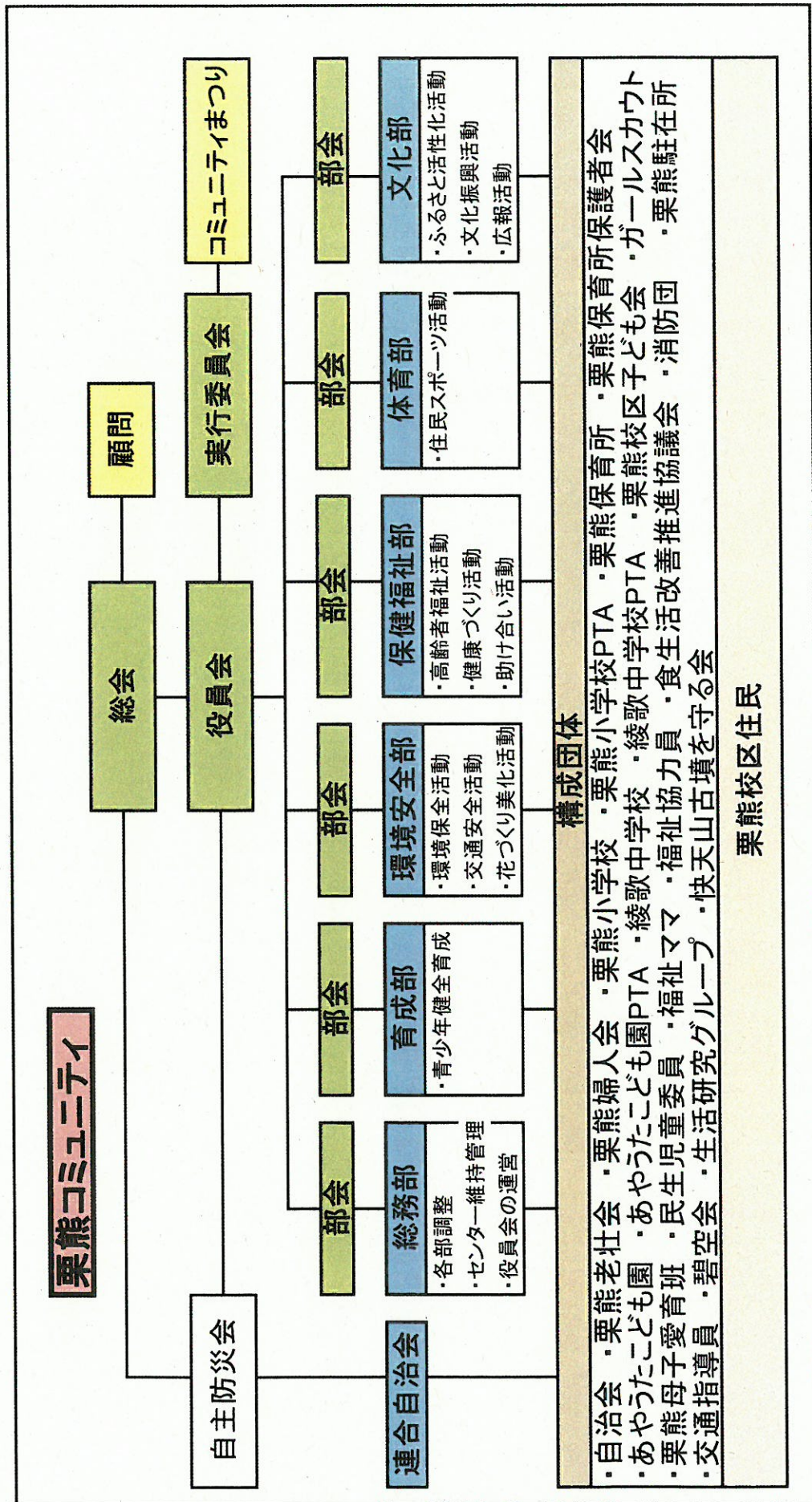
【文化部アクションプラン】

目標	事業名	目 標 (具体的施策)			
		現状	29 年度	30・31 年度	32・33 年度
自然と歴史文化を尊ぶまち	情報発信事業	広報紙の発行	継続	⇒	⇒
	天体観測事業	天体観測教室	継続	⇒	⇒
	歴史文化事業	歴史探訪ウォーク	検討・実施	継続	⇒



広報紙「さんさん快天」

栗熊コミュニティ 組織図



第Ⅱ期まちづくり計画策定委員名簿

役職名	氏名	所属
委員長	松岡 繁	栗熊コミュニティ会長/栗熊校区連合自治会会長
副委員長	山本 陸央	栗熊コミュニティ副会長/栗熊校区連合自治会副会長
委員	津郷 正敏	学識経験者
	奥村 泰造	学識経験者
	木谷 直充	丸亀市立綾歌中学校長
	田瀬 成和	〃 栗熊小学校長
	川崎 幸代	〃 あやうたこども園長
	大熊 知恵美	〃 栗熊保育所長
	永森 昌子	綾歌市民総合センター所長
	喜多 壽子	丸亀市民生児童委員協議会連合会副会長
	十河 靖典	丸亀市PTA連絡協議会会長/防災士
	吉田 一博	栗熊コミュニティ顧問
	西井 榮一	〃
	宮川 文一	〃
	福岡 由紀子	栗熊コミュニティ副会長/栗熊婦人会会長
	吉田 和美	〃 育成部会長
	草薙 恭平	〃 環境安全部会長
	栗井 末子	〃 保健福祉部会長
	高尾 泰弘	〃 体育部会長
	新居 文義	〃 文化部会長
	大藪 博文	丸亀市地域担当職員
事務局	新居 勉	栗熊コミュニティ所長
	河野 玲子	〃 職員

第Ⅱ期まちづくり計画策定委員名簿

役職名	氏名	所属
委員長	松岡 繁	栗熊コミュニティ会長/栗熊校区連合自治会会長
副委員長	山本 陸央	栗熊コミュニティ副会長/栗熊校区連合自治会副会長
委員	津郷 正敏	学識経験者
	奥村 泰造	学識経験者
	木谷 直充	丸亀市立綾歌中学校長
	田瀬 成和	〃 栗熊小学校長
	川崎 幸代	〃 あやうたこども園長
	大熊 知恵美	〃 栗熊保育所長
	永森 昌子	綾歌市民総合センター所長
	喜多 壽子	丸亀市民生児童委員協議会連合会副会長
	十河 靖典	丸亀市PTA連絡協議会会長/防災士
	吉田 一博	栗熊コミュニティ顧問
	西井 榮一	〃
	宮川 文一	〃
	福岡 由紀子	栗熊コミュニティ副会長/栗熊婦人会会長
	吉田 和美	〃 育成部会長
	草薙 恭平	〃 環境安全部会長
	栗井 末子	〃 保健福祉部会長
	高尾 泰弘	〃 体育部会長
	新居 文義	〃 文化部会長
	大藪 博文	丸亀市地域担当職員
事務局	新居 勉	栗熊コミュニティ所長
	河野 玲子	〃 職員

平成 29 年 3 月発行

編 集 まちづくり計画策定委員会

発 行 栗 熊 コ ミ ュ ニ テ イ
栗熊コミュニティセンター内

〒761-2405 丸亀市綾歌町栗熊西1638-1

TEL (0877)86-6605

FAX (0877)86-2252

